

販売高91億円 最高水準 小麦反収48%増 J Aあしよろ

2022年5月21日(土)

【足寄】J Aあしよろ(新津賀庸組合長、組合員220人)の総会が20日、足寄町内の道の駅あしよろ銀河ホール21で開かれた。2021年度の農畜産総販売高は、前年度比6.1%増の91億5,441万円で過去最高となった。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、役員11人が出席したほかは、152人が書面出席だった。新津組合長は「J Aが組合員の営農をしっかり支援していくことが重要で、考えて実践、行動していくことが必要」とあいさつした。

21年度は農産部門が19.9%増の16億5,873万円。小麦は開花期以降の好天により48%増の反収となった。豆類は生育期の干ばつ傾向で小粒が目立ったが、前年産を上

回る相場で販売高を押し上げた。作付の推進を図ってきたジャガイモは取引企業との連携を図り、6,600トンの生産、出荷を達成した。

酪農畜産部門は3.5%増の74億9,568万円。乳量は前年を上回り、個体販売価格は和牛素牛が値を回復した。

経常利益は17.4%増の1億454万円。町特産のラワンブキなどの販売が好調だった。当期剰余金は9,345万円(25.9%増)。

販売高最高 130億円 小麦など畑作好調 J A豊頃町

2022年5月21日(土)

【豊頃】J A豊頃町(山口良一組合長、組合員256人)の総会が20日、同J Aで開かれた。2021年度の農畜産物販売支払高は109億7,352万円。生乳補給金と経常所得安定対策交付金を加えると前年度比5%増、過去最高の130億2,301万円となり、12年連続で100億円を超えた。

委任状、書面での議決権行使を含めて219人が出席。山口組合長が「昨年は畑作が48億円余り、酪農は81億円で、130億円を超える取扱高となった。組合員の努力のたまもの」とあいさつした。

作況は春先から好天に恵まれ、小麦は史上最高の反収(10アール当たり収量)に。豆類のうち小豆は7月下旬の高温の影響で収量が減るも、大豆、金時、手亡は量と質ともに良好だった。ビートは直播(ちよくはん)で一部に発芽不良があるものの、反収や糖分が平年を上回った。

品目別では、小麦が28.9%増の13億8,114万円、豆類

が5.8%増の13億9,694万円、ジャガイモが7.6%増の12億5,263万円、ビートが11.6%増の7億6,625万円(いずれも経常所得安定対策交付金を含む)で、畑作部門の合計で12%増となった。

生乳は出荷量が2%増えたが、販売支払高は0.6%減の66億6,277万円(補助金を含む)。個体販売は取扱頭数が前年を下回った一方、新型コロナウイルス感染拡大に伴う価格の落ち込みで回復基調となり、7.6%増の14億6,070万円と、畜産全体で1.2%増の実績となった。

当期末処分剰余金は2億1,158万円、出資配当金は873万円、次期繰越剰余金は3,327万円とすることを了承した。

農畜産物支払高42億円 平年以上の収量 J Aさつない

2022年5月23日(月)

【幕別】J Aさつない(正組合員168人)の通常総会が20日、同J Aで開かれた。農畜産物支払高(交付金を除く)は42億8,600万円、経常利益で8,300万円を確保し、計画を上回った。

総会には書面参加の106人を含む116人が参加。農畜産物支払高の内訳は農産物が24億3,500万円、畜産物が18億5,100万円。農産物は昨年6~7月の高温少雨の影響を受け野菜、バレイショ、豆類の一部で収量・品質が低下したが、8月以降の天候に恵まれたこともあり、全般的に平年以上の収量があった。

また任期満了に伴う役員改選では、組合長に高橋孝二氏を選任するなどの議案を承認した。

その他の役員は次の通り。

▽専務理事=中村政昭(新)

▽理事=小野田伸二、藤川啓次、松田琢宏、藤原広(以上新)、西田靖昭(再)

▽代表監事=七海義浩(新)

▽監事=松田明(新)、熊谷直則(再)